

くみあいニュース

山口大学教職員組合 (2025 年 12 月 18 日 Thursday)

第 305 号 (2024 年度-第 17 号) / 電話 : 083-933-5034 ・ メール : fuy-union@galaxy.ocn.ne.jp

組合 学長との意見交換を行う(11/17)財政問題を中心テーマに

11 月 17 日、組合と学長他執行部との間で、大学の財政問題に関わる意見交換を実施しました。組合からは三原執行委員長・桑畑副執行委員長・滝野副執行委員長・野坂書記次長・鴨崎参与など計 6 名が出席し、大学側は谷澤学長・松野総務企画担当副学長・溝部人事労務・財務施設担当副学長と事務職員の計 9 名が出席しました。



冒頭、組合側から授業料値上げ手続きに問題があると認識していること、学生・教職員からの複数回の要望にも真摯な対応がなかったことへの遺憾の意を表明しました。それを受けて学長より、近隣国立大学も含めて非常に厳しい財政状況にあり、その中で山口大学としても修学環境を維持改善する必要があること、他の国立大学も我慢をしている中で「誰かがやらないと、なかなかそういう風に（授業料値上げに踏み切る方向に：組合注）なっていない」ということを鑑みて、先陣を切って授業料値上げに踏み切ったことが述べられました。また、検討プロセスについても、一昨年から各部局の意向を聴取し、同時に執行部の考えも各部局に伝えているはずであるとの認識が示されました。

これに対して組合は、「2 年前から検討していたのであれば、9 月末に学長メッセージを出し翌年 4 月からの改定などではなく、もっと余裕を持って公表できたはずであろう」と、指摘しました。

「授業料問題 ≠ 財政問題？」とはいえ全教職員向け説明会実施に

これに対して学長は、「今日は財務の説明であるからそのことはまた別の機会に」と返答を行いました。「財務」の問題の中に授業料問題も位置づけられるはずではあるので、なぜ「別の機会」になるのか判然とはしませんでした。組合は、「であれば授業料問題に特化した、全教職員向け説明会を別途開いていただきたい」と要望し、学長から「また後ほど相談させていただきます」と前向きな返答がありました。

その後は、特に医学部附属病院の赤字を中心とした、山口大学の財政問題に議論の焦点が移りました。この件はまた今後ニュースでお伝えしたいと思います。

授業料値上げ決定の遅れと各種選抜日程の問題は大きい

意見交換の終盤、授業料問題で 1 点だけということで、組合側より、「大学側は、総合型選抜の入学者に対しては大変気配りをしており、『合格発表前の授業料改定となり申し訳ない』といったことを述べているが、授業料改定公表（10 月 30 日）の前（10 月 3 日）に合格発表があった私費外国人留学生についてはどう対応をしているのか」と尋ねました。この点は、教職員有志からも既に指摘・質問されていることです（11 月 4 日付け学長宛要望 <https://sites.google.com/view/yu-seimei-2025> : 2 頁に掲載）が、回答されていなかったようなので、組合として尋ねました。



学長も両理事も、こうした日程のズレが存在していたこと自体をまったく把握していなかったのか、その場では答えが返ってきませんでした。ともあれ、出願後や合格発表後に授業料を上げることを決めて公表するということは、受験生・保護者に対する大きな背信であり、山口大学への社会的信頼を毀損することとなり、あってはならないことでしょう。

授業料改定手続きへの疑問を質し質問状提出 (12/5)

～全教職員対象説明会・総合型選抜出願期間後公表・私費外国人は？～

以上の意見交換を経て、組合としても、授業料問題には、とりわけその改定手続きにおいて不明瞭な点が

授業料の減免措置等に関する山口大学教職員有志の要望
山口大学の授業料改定手続きに対する山口大学教職員有志（11月4日付発出）

山口大学学長 谷澤幸生 殿

山口大学教職員有志

授業料の減免措置等に関する山口大学教職員有志の要望

我々教職員有志は、2025年10月17日付で発出した声明以降、授業料改定スケジュールの白紙撤回を求めてまいりましたが、10月30日に「令和8年4月以降の授業料改定決定のお知らせ」が出されたことを受け、以下のことを要望いたします。

1. 特定の入試区分を経た入学者への授業料減免措置の設定

2025年9月25日の「学長メッセージ」公表時に既に出願を終えていた、総合型選抜の合格者と私費外国人留学生入試——さらにこの場合は学長記者会見前に合格者発表も終えており、入学手続きも始まっていた——を経た入学者については、例えば授業料を現行の535,800円／年で据え置く等の、授業料減免措置を求めます。

我々に対して学長は、「総合型選抜の受験生の皆様にとって、授業料改定準備の公表が合格発表前という大切な時期になったことを」「心よりお詫び」（10月29日付「再度の声明への回答」）されました。すなわち、公表時期が受験生への配慮に欠けたものであったと謝罪されたわけです。また、学長会見においても「もう少し早く公表すればよかった」とも答えておられます（例えば<https://www.youtube.com/watch?v=gsuB2Y0yvFQ> 参照）。さらに言いますと、本件について「本来は入試の1年前に公表すべきだった」（2025年10月30日付中国新聞）と指摘する識者（明治学院大学教授石原俊氏）もいます。総合型選抜の募集要項8頁には、「合格した場合、入学を確約できる者」（下線部引用者）であることを出願資格としており、入学に対する一定程度の拘束をかけているという背景もあります。

以上を踏まえますと、上記2種の試験区分を経た入学者に対しては、何らかの措置を取ることが妥当かつ必要だと考えられます。また加えてこの措置は、本件によって社会的に広まっている山口大学への不信感を払拭する上でも合理的なものと思われます。

2. 経済的支援枠の拡充

2点目に、次年度入学者に対する経済的支援枠の拡充を求めます。

現在公表されている「授業料改定の内容等について」では、「経済的支援の取組」を行うとされています。その具体的な内容はまだ分かりませんが、現行の枠が拡大されるといった文言はないことから、また、10月14日開催の教育研究評議会資料を見るに、現行の減免措置を基準としたものを想定しておられるように思料されます。

他方で、今回の授業料増額によって、経済的困窮に陥る学生が増える可能性が想定されます。また、先の石原氏の指摘にある通り、社会通念上も、次年度入学者にとって今回の改定が急なことは否めません。少なくとも次年度入学者については、現行よりも手厚い経済的支援が必要だと思われます。

3. 透明で民主的な意思決定プロセスへの回帰

我々への回答において、学長はこれまで「情報公開や対話の機会が十分でなかったこと、また、決定・公表までの展開が急であったというご指摘は真摯に受け止めているところであります」（10月23日付「回答」）と述べ、「授業料改定分で進める教育研究環境の整備については、整備内容とともに整備に要した金額等についても、適時適切に本学ホームページ等を通じて、学生を含む学内構成員、さらには社会に対して情報公開を進めてまいります」（10月29日付「再度の声明への回答」）と述べておられます。この回答に背くことなく、今回のような不透明かつ非民主的な手続きを、今後取らないことを確約してください。

我々への回答において学長は、「今後は、山口大学が公表する授業料の使途に関する情報をご確認頂き不足している点についての指摘や、教育環境の維持・向上のための提案など、前向きなご意見が頂けることを期待しております」（10月29日付「再度の声明への回答」）と述べておられます。今回我々が出した要望を、「前向き」に受け止めていただき、上記3点を実現・履行していただけますよう、ここに要望いたします。

なお、上記要望の内特に1と2につきましては、本日11月4日に総合型選抜の合格発表があり、入学手続きが11月13日から始まることに鑑みて、遅くとも11月7日（金）17時までにご回答いただけますようお願いいたします。

以 上

2025 年 12 月 5 日

国立大学法人山口大学
学長 谷澤 幸生 殿

山口大学教職員組合
執行委員長 三原 敏秀



授業料改定の手続きについて（質問）

先日は山口大学の財務をめぐる当組合との意見交換会を開催していただきありがとうございます。その際、授業料改定に関わって提示された項目も含めた3点につきまして、下記の通りお尋ねします。いずれも、授業料改定手続きをめぐる教職員の不信と不安を払拭するために必要なこととなりますので、急ぎご回答いただくようお願いいたします。

記

1. 11月17日の意見交換会でのご発言を踏まえ、貴職におかれましても、全教職員対象の説明会あるいは意見交換会といった、「対話」の機会を設定することに前向きでおられると理解しております。そこで、当組合としましては、全教職員との「対話」の機会を、遅くとも年度内には設定いただきたいと考えております。つきましては、開催時期はおよそいつ頃となりましょうか、ご回答ください。
2. 授業料改定の公表は、総合型選抜の出願期間（9月1日～4日）後に行われました。しかし総合型選抜においては、「出願資格」として「合格した場合、入学を確約できる者」（募集要項8頁）との規定が設けられており、合格後の入学辞退が厳しい仕組みとなっております。これを踏まえ、授業料改定の公表は、合格発表前ではなく出願期間前に行うべきことだったのではないかと考えますが、これに関していかなる検討と議論を行ったのか、根拠資料と併せてご回答ください。
3. 総合型選抜以外にも、経済学部私費外国人留学生入試においては、合格発表（10月3日）後に授業料改定の公表が行われました。この事実は、『ご意見受付フォーム』に寄せられたご意見等に対する本学の考え方等で述べておられる「合格発表前までには授業料改定の内容を決定・公表する必要がある」という方針との齟齬があるように見受けられます。つきましては、(1)当該入試と授業料改定公表とのスケジュールをめぐっていかなる検討と議論が行われたのか、(2)当該入試合格者が入学手続を行う際に、授業料についてどのような伝達を行ったのかの2点を、根拠資料と併せてご回答ください。

以 上

多く、教職員や学生からの声に執行部が正面から応えてきたとは言えないという結論に達しました。すなわち、「重大な決定が知らぬ間に進み、それに声を挙げてもまともに応答されない」といった状況では、労働者内に不信感や不安感が増すこととなり、決して良い労働環境とは言えません。

組合は、12月5日（金）に学長宛に「授業料改定の手続きについて（質問）」を提出しました。（3頁に掲載）質問は3点ですが、要約すると、(1)意見交換会で約束された全教職員向けの対話の機会はいつ開催されるのか、(2)授業料改定が公表されたのは、総合型選抜出願後であり、総合型選抜の出願資格に「合格した場合、入学を確約できる者」とある以上、タイミングとしておかしい。どういう議論がなされたのか、(3)私費外国人留学生入試は、合格発表後に授業料改定が公表されており、さらにおかしい。どのような検討と議論が行われ、また、入学者には授業料についてどのように伝達を行っているのか、となります。

学費値上げ問題に関する山口大学教職員有志の要望（11/4） ～総合型選抜入学者および私費留学入試入学者へ配慮を～

なお、質問の内(2)と(3)については、既に教職員有志が建設的な提案を行っています（11月4日付け学長宛要望）。すなわち、学長メッセージ公表（9月25日）後に出願を終えていた、総合型選抜入学者と私費外国人留学生入試の入学者（いずれも次年度入学者）については、授業料値上げを適用せず、535,800円／年で据え置く等の減免措置を設けてはどうか、という提案です。

提案

授業料年額は受験するしないの大きな判断材料→急速変更なら減免必要

学長が説明したように、2年前から検討していたのであれば、出願後に公表するような一般にはあり得ないスケジュールでの改定を行う必要性はありませんし、直前まで検討していたのであれば適用対象をずらすべきです。いずれにしても、これらの入学生たちは、受験する／しないを判断する上で大きな要素となる授業料年額（負担額）について、不正確な情報の下で判断を下すこととなっています。その責は、少なくとも受験生・入学生たちにはありません。こうしたことから、減免措置を設けるべきであるし、むしろその方が山口大学が社会的信頼を再度得るためにも必要なことなのではないかと、教職員有志は指摘しています。

ぜひとも山口大学教職員組合へのご加入を！

山口大学教職員組合は、人事院勧告への対応をめぐる大学側との交渉や、諸制度の改定時の交渉、あるいは、非組合員も含めた教職員の皆様からの労働相談等の対応ももちろん行っています。しかしそうした、労働問題のど真ん中のことだけではなく、今回のように、授業料改定問題や、組合ニュースで今後もお伝えしていく学生のビラ配り禁止問題など、働く環境としての山口大学をより良くしていく活動も行っています。そうした組合活動は、多くの方のご加入によって支えられています。月々の組合員費はそれぞれの毎月の給与の1.1%となっており、他の労働組合・教職員組合等と比べても比較的安価なものとなっています。働く場のセーフティネットを強化するためにも、また、部局を超えた全学的な連帯を築くためにも、ぜひとも組合にご加入ください。

✂-----切り-----✂

組合加入申込書

年 月 日

お名前		所属	
内線番号		e-mail	

※必要事項をご記入いただき、学内便（メール可）にて組合事務所までお届けください。